

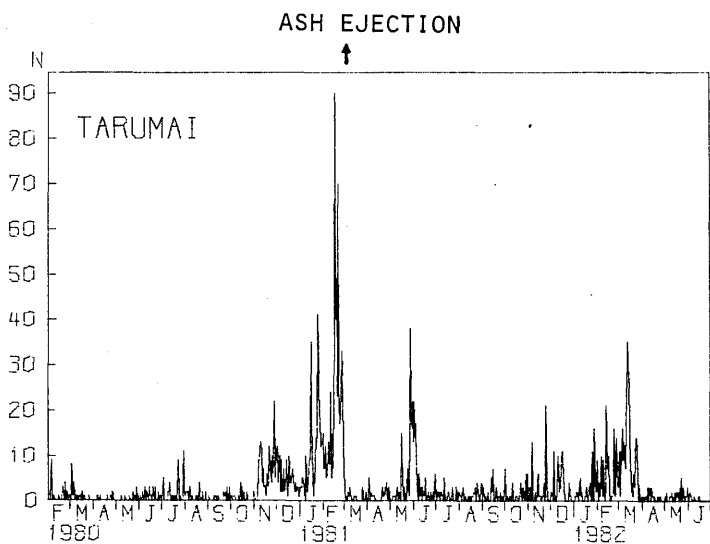
樽前火山観測（1982年4月～6月）*

北海道大学理学部有珠火山観測所

地震活動の状況と、光波測量の結果とを報告する。

地震活動

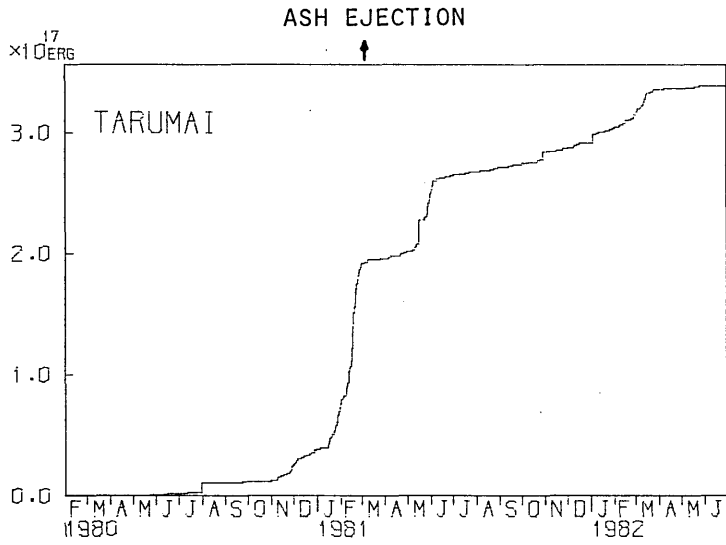
第1図に日別地震数を、第2図に地震波放出エネルギーの積算を示す。両図から明らかなように、前報¹⁾の期間(1981年12月～1982年3月)と異なり、本期間は大きな地震($M_F-P \geq 2.0$)²⁾の発生も群発的活動もなく、地震活動は平穏な状態にあった。第3図に1967年7月1日以降1980年1月31日までの気象庁による日別地震数と1980年2月1日以降の有珠火山観測所の日別地震数をつないだものを示す。同時に1979年2月1日以降の $M_F-P \geq 2.0$ ²⁾の地震を示す。この図からも、本期間が静穏期であることがわかる。第4図に1982年1～3月と4～6月の震源分布を示す。地震数は少ないが、震源には変化のないことがわかる。長周期卓越地震は4月と6月に各1回観測されただけであった。 $M_F-P \geq 2.0$ ²⁾の地震は本期間中には発生しなかった。



第1図 樽前山の日別地震回数（K点で0.2 mkine以上の地震）

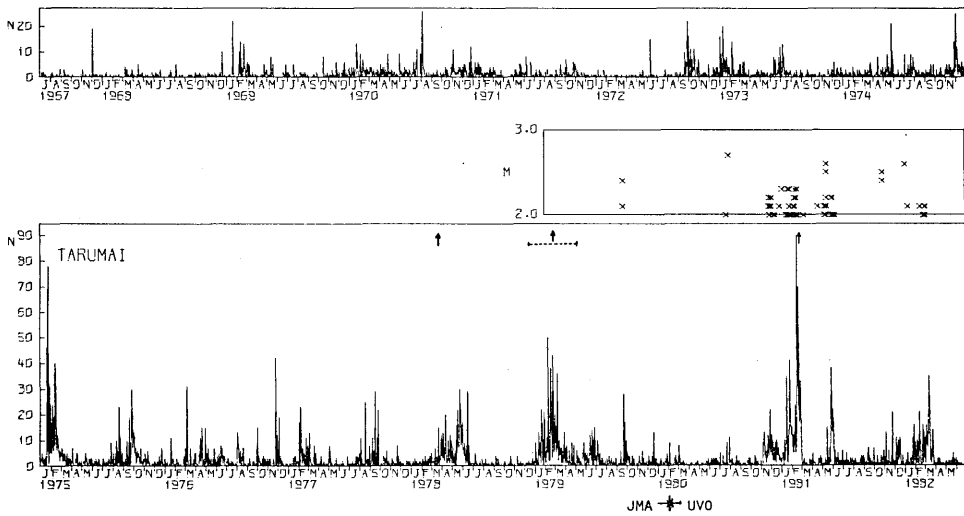
Fig. 1 Daily frequency of earthquakes at Tarumai volcano
($A_V \geq 0.2$ mkine at K).

* Received July 19, 1982



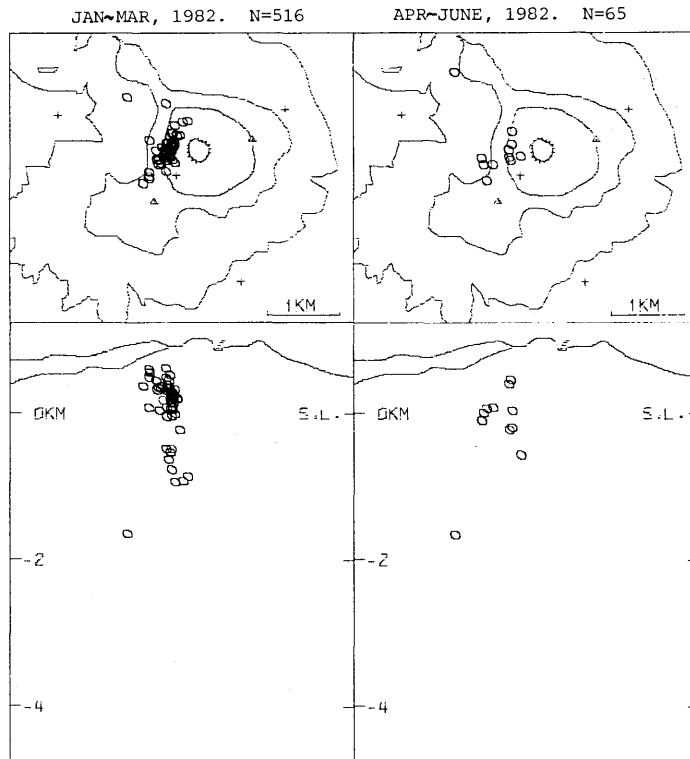
第2図 樽前山の地震波放出エネルギーの積算

Fig. 2 Cumulative discharge of seismic energy.



第3図 樽前山の日別地震回数 (JMA ; July 1967 ~ Jan. 1980, UVO ; Feb. 1980 ~) と $M_{F-p} \geq 2.0$ の地震 (UVO ; Feb. 1979 ~)

Fig. 3 Daily frequency of earthquakes at Tarumai volcano (July, 1967 ~ Jan., 1980 after JMA ; Feb., 1980 ~ after UVO) and large earthquakes ($M_{F-p} \geq 2.0$).



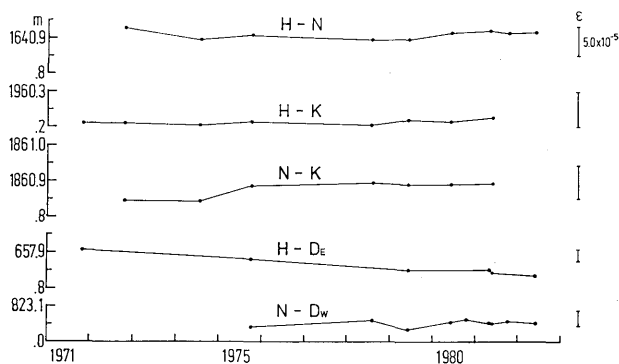
第4図 震源分布(1982年1月~3月および1982年4月~6月)

Fig. 4 Hypocenter distributions (Jan. ~Mar. and Apr. ~June, 1982).

光波測量

第5図に光波測量の結果を示す。測線は5測線あるが、今回実施したのは、H-N、H-D_E、N-D_Wの測線である。図に示されるように、変化はいずれも小さく、測定誤差と同程度かそれ以下である。

以上述べたように、地震活動も地殻変動も平穏な状態にあるが、これが一時的なものか長期的なものか



第5図
樽前山頂部の測線の辺長変化

Fig. 5
Changes in length of base lines on the summit of Tarumai volcano.

は不明である。今後も十分な監視を続け、活動の推移に注目しなければならないであろう。

参 考 文 献

- 1) 北海道大学理学部有珠火山観測所(1982): 樽前火山観測(1981年12月~1982年3月), 噴火予知連会報, 24, 25-28.
- 2) 梅原宏之, 山下 濟, 前川徳光(1981): 樽前山の火山性地震(1979年3月~1980年3月), 北海道大学地球物理学研究報告, 39, 47-56.
- 3) 北海道大学理学部有珠火山観測所(1981): 樽前火山観測(1981年1月~4月), 噴火予知連会報, 21, 19-23.
- 4) 北海道大学理学部有珠火山観測所(1979): 1979年前半期の樽前山における火山観測, 噴火予知連会報, 16, 17-20.